



◎：災害の教訓を共有し防災に役立てよ
つと、各地の経験を話し合う「全国被災地語り部シンポジウム」が26日、兵庫県淡路市で開かれた。

◎：宮城県南三陸町の南三陸ホテル観洋おかみ、阿部憲子さん（54）は震災遺構の重要性を指摘。建物解体されると、教

訓が理解してもらいにくくなるとして「目で見て伝わる物言わぬ語り部も必要」と述べた。

◎：会場には阪神大震災などの語り部ら約430人が集まり、継承を巡る好例や課題について、メモを取るなどして熱心に聞き入った。語り部からは「活動を広げ、語り部を世界の共通語に」との声も上がった。